

朝メシ前に歩く歴史の道

歴史国道・俱利伽羅(くりから)コース

大高竜亮

気分はパーマネントコース調査隊！ 喧騒の連休の中、静かな早朝のうちにコースを歩いてみた。

歴史国道「俱利伽羅」コース
石川県 No.9 5.5 km 10 ポスト

パーマネントコース調査隊

パーマネントコース歩きを始めて30年目ともなると、未踏破のコースを探すのが難しくなります。このゴールデンウィークは正月に続いての遠征を敢行しましたが、休廃止コースの現状調査や踏破後に変更されたコースの再訪が中心となりました。

今回の旅は壮大に「日本海めぐり」と題し、総移動距離は2,500 kmにも及びました。直前まで綿密な計画を立てることなく過ごしてしまい、予め段取りしておいたのはレンタカーを新潟で確保しておいたことだけ。それ以外はざっくりと、日本海でも行こうかと考えていた程度でした。

出発は4月28日の午後。回る可能性のあるコースのマップや、多くのパーマネントコースファンの仲間から頂いていたコピーマップを出かけるまでにピックアップします。最近では問い合わせをしても要領を得ないことや、コース状況を把握していないケースも多く、以前のように管理者から事前に太鼓判をもらうことがほとんどできません。そのため、こうして前もってマップを入手しておき、それを持参することが無駄足を回避する最大の保険となります。

用意したのは、北は山形から西は島根までの未踏破コース。現状が不明なものも多く、気持ちは調査隊といったところです。基本的に廃止コースは利用者の危険性を配慮して存続が打ち切られたものもあり、その跡地を歩くことは勧められません。あくまで自己責任の範囲での行動となります。

ニッポンレンタカー新潟駅前営業所で馴染みのみなさんに見送られて最初に向かったのは山形県の米沢市。車中泊をして近隣のコースを調査し、福島を経由してまたすぐ新潟に引き返します。

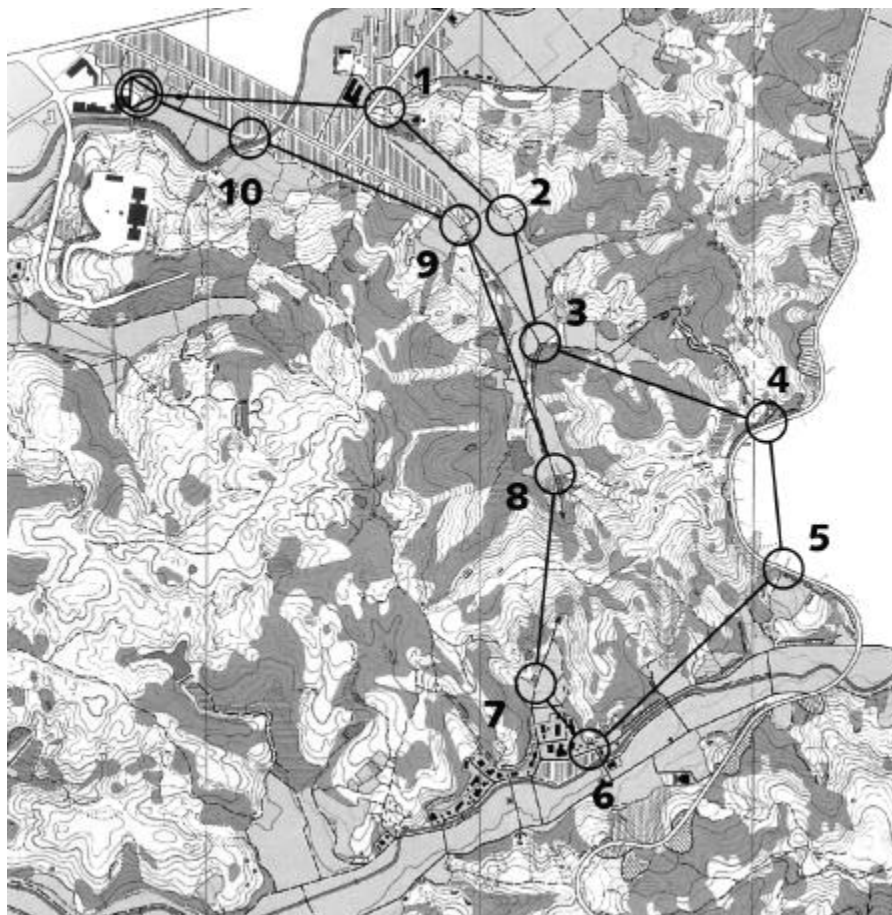
新潟県内のコースを1箇所歩いた後、4月30日の夜に石川県内に入りました。今回の旅では、ホテルにはデジカメの充電のために米子で1泊したのみで、残りは全て車の中で夜明かし。この夜は「道の駅・俱利伽羅源平の郷」に車を泊めて朝を待つことにします。最近では道の駅を宿代わりにする旅人が増えているようで、この時もすでに多くの先客が眠りに就いていました。

変遷するコース

余談ですが、石川県のコースのうち、県 No.8「宮崎台地(廃止)」～No.17「一口生水」までの10コースは、100キロコンペの対象ながら、JOLC から JOA への移行期に開設された影響で、公認ナンバーが与えられていません。これから紹介する「歴史国道・俱利伽羅」コースは、開設当初「火牛の計」と命名されていましたが、ここも JOA の公認ナンバーはありません。

私が初めてこの地を訪れたのは1995年9月24日のこと。このときすでに名称は「俱利伽羅」と変更されていました。今の石川県下では全滅してしまった10kmの本格コースで、現在のコースを大きく包み込むように設定されていました。スタート地点の「俱利伽羅」駅だけが異常に離れていたのも特徴的なコースでした。

歩き易さを考慮してか、次第にコース距離が短縮される流れを受け、このコースもその後大幅な変更が行なわれています。変更当初は5km 7ポストで、片流れのようなやや中途半端なものでした。マップのポスト記号記入欄も7ポストまでとなっています。事前にこの情報を得ていたのも、何とも面白味のないコースになったものだと残念に思っていたのですが、現地のマスターを見てびっくり。3つのポストが追加されて、しっかり1回りするコースに変わっているではありませんか。マップの修正日付が4月になっていることから、わずか1ヶ月前に生まれ変わった





倶利伽羅峠の戦いで活躍した？「火牛」

た様子。とても得した気分です。

火牛の計

「歴史国道」の名の通り、ここ倶利伽羅は平安末期に源義仲軍と平維盛軍とで繰り広げられた「治承・寿永の乱」のひとつである「倶利伽羅峠の戦い」のあったところ。この戦の際、義仲軍が数百頭の牛の角に松明を括りつけて敵陣に放ち、大混乱となった平家軍は倶利伽羅峠の断崖から転落して壊滅したと伝えられています。ただこの話、角に火をつけた牛がまっすぐ歩くかという疑問が残るようで、中国戦国時代の斉の武将田単の「火牛の計」(角に短剣、尻尾に松明をつけ、火にあぶられた牛が進んだという話)を参考にした創作ではないかという見解もあります。

コースの一部は旧北陸道を通ります。倶利伽羅峠の戦い以外でも、奥の細道の松尾芭蕉や、参勤交代での加賀の殿様も歩いた北陸の大動脈として賑わった道として伝えられています。

早朝のコースめぐり

閑話休題。寝泊りしていたのが正にスタート地点でしたので、出発時刻は過去最も早い5時49分。マップは持参したものを使用します。

マップを扱っている「倶利伽羅塾」横にある案内板から、第10ポストを先に見てしまわないように、街中の道をまずは選択。津幡川を渡り、大きなT字路を左折すると「倶利伽羅神社」があります。第1ポストは鳥居に向かって左手の山肌に立てられています。石

川では多用されている平板ポストです。今回新設されたポストで汚れひとつありません。

第2ポストは第9ポストとわずか100m程度しか離れていません。これも先に確認してしまわないように視線を逸らしつつ向かいます。山裾の分岐にあるポストは難なく見つかります。これも新設です。

第3ポストは旧コースの第2ポストと同じ地点にあります。耕作地の中の畦道を進むと旧北陸道への分岐でポストを確認。以前は「S」の標準サイズのポストがありましたが、更新されています。1995年当時の写真を見ると、設置位置も微妙に南へずらされていることが判ります。



歴史国道への分岐に立つ第3ポスト

第4ポストへ向けて旧北陸道を歩き始めようとする、小さな看板が目に入ります。「危険 クマが出没しています。歴史国道で遭遇する場合がありますので、散策はご遠慮くださるようお願いいたします」とのこと。近年、里まで降りてくる熊が頻繁に話題になり、

こんなところでも熊の出没が珍しくなくなっているのかと思いつつも、ここが通行止めではPC巡りが成立しなくなってしまうため、躊躇うことなく歩を進めます。車両の通行も規制されている整備された道が続きます。途中にある石のオブジェには「くりから峠へ3.8km」と刻印されています。山道らしき区間はコースを通じてここだけ。熊との遭遇もなく通過でき、舗装道路に出たところで第4ポストを発見します。ちなみに旧コースの第1ポストが同一地点にありました。歴史国道を前回とは逆に歩いたこととなります。

第5ポストまでの道のりも、旧コースの最終ポスト発見後、ゴールの倶利伽羅駅を目指して歩いたところ。広い舗装道路で面白味は一切ありません。ポストは道端にあり、道路標識並みに簡単に眼に入ってきます。

第6ポストへは道を回らず最短路を下ります。小雨降るなか、滑る足元に注意しながらも、このくらいのスリルは敢えて味わいたいと思えるほど、コースの易しさは後半一層際立ちます。下り切ったところが旧第10ポストのあったところですが「」のポストは撤去されていました。川に沿って山の南を走る道を西に向かうと民家の前でポストを発見します。

第7、第8ポストは下中トンネルの南北の出口付近にいずれも置かれています。4月まではこの第7ポストで終了になり、このあとはゴールまでひたすら歩くだけ。それと比べると、新設の第8ポストに、旧第1、第2ポストから転じた第9、第10ポストが残っているのは大きな違いです。

第9ポストの手前で第3ポスト前を通過しますが、その先のある地点からは、第2、3、9の3つのポストが同時に見渡すことが可能です。道端の第9ポスト、川端の第10ポストを確認すると早くも終了となります。

所要時間は1時間16分。7時を過ぎたばかりで、まさに「朝飯前」のコースでした。

このあと、通勤ラッシュに巻き込まれながらも金沢市に向かい、延長された「坪野・平栗」コースに挑戦しましたが、これはまた次回のお楽しみということで...

(2007年5月1日 踏破)
(大高竜亮)